「“暖まる”道具展」

1. 概要

県内で出土した遺物を中心に、先人たちが寒さをしのぐため、暖をとるために工夫してきた道具に焦点をしぼって展示し、“寒さ対策”の歴史について、わかりやすく紹介・解説する。

2. 展示資料一覧

遺跡名	種別	点数
清六Ⅲ遺跡（野木町）	内耳土器（タニシ殻入り）	1
赤塚遺跡（栃木市）	内耳土器	1

下古館遺跡（下野市）	石鍋	6
	温石	2
参考品	手あぶり火鉢	1
	湯たんぽ	1
合計		12

3. パネル一覧

	パネル名	内容
1	はじめに	暖房や加熱調理に使われる道具である、暖房器具、鍋・釜の移り変わりを県内の出土遺物から解説する。
2	鍋・釜 －水・食品の加熱、温かい料理を作る道具－	鍋・釜は食物を煮炊きする道具である。中世には土鍋や鉄鍋が使われ、県内の遺跡でも土鍋は多く出土する。一部で石鍋も使われた。釜は平安時代後半には土師器の「羽釜」が出現し鍋・釜の分化がはっきりしてくる。
	写真パネル：「春日権現験記絵」より　鍋で調理中	鎌倉時代後期 (14 世紀初め頃) 貴族の館の厨房 (台所) の様子です。鉄鍋を使っているようです。
3	からだを暖める道具 －むかしの暖房用具たち－	炉や囲炉裏は暖房の原形で、木炭も古墳時代には存在し、埋葬施設にも利用され、火熨斗などが副葬品として出土する。奈良時代に火鉢が中国から伝来し、中世には炬燵、行火が使用されるようになる。懐炉や温石も暖まる道具である。
	写真パネル：「江戸遊戯画帖」より　火鉢を囲む	江戸時代後期の町人生活の一コマで、右下に火鉢を囲む人たちがいます。３足の「火舎」の形の火鉢です。

展示風景